

世界史B	地理歴史科（世界史B）ロードマップ
期待する生徒像	<p>◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒</p> <p>※歴史学習のための技能とは具体的に…</p> <p>①歴史的事象の前後関係の把握、因果関係を明らかにする力</p> <p>②歴史的事象の空間的關係の把握、諸地域世界相互の関わりを明らかにする力</p> <p>③資・史料を用いて、その内容/意図/ねらいなどについて考察し自ら歴史像を形成していく力</p> <p>◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるのか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒</p>

大項目	中項目及び単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】 ◇単元内における問いの例
(1) 世界史への扉	歴史を学ぶこと	<p>・世界史に対する興味・関心を高めさせる。</p> <p>(歴史を学ぶ意義に気付く力)</p>	<p>【現代に生きる私たちにとって、歴史を学ぶことは必要なのか？】</p> <p>◇自然環境が人類の歴史にどのような影響を与えていたのか。</p> <p>◇世界の歴史が日本の歴史にどのような影響を与えていたのか。</p> <p>◇世界の歴史が現代の我々の日常生活に影響を及ぼしているのだろうか。</p>
(2) 諸地域世界の形成	ア 西アジア世界・地中海世界 単元「文明の興り」	<p>・西アジア、地中海世界の古代帝国の成立過程を考察させる。</p> <p>(都市と古代帝国を関連付ける力)</p>	<p>【都市国家はどのように帝国へ変貌したか】</p> <p>◇オリエントで都市が発達したのはなぜか。</p> <p>◇アテネ民主政と現代の民主政の違いは何か。</p> <p>◇なぜ都市国家ローマはローマ帝国となったのか。</p> <p>◇キリスト教はどのようにして人々の心を捉えたか。</p>
	イ 南アジア世界・東南アジア世界 単元「古代アジアの交易の時代」	<p>・ヒンドゥー教の成立過程を考察させる。</p> <p>(宗教と古代社会を関連付ける力)</p>	<p>【ヒンドゥー世界はどのように成立したか】</p> <p>◇ヴァルナ制はインド社会に何をもたらしたか。</p> <p>◇なぜ仏教はインドで衰退したのか。</p> <p>◇「ヒンドゥー教」とは何か。</p> <p>◇東南アジアはどのようにインド化されたのか。</p>
	ウ 東アジア・内陸アジア世界 単元「中華文明の成立」	<p>・東アジア世界を形成した中華文明の特質を考察させる。</p> <p>(思想と地域世界を関連付ける力)</p>	<p>【中華帝国は東アジア世界をどのように成立させたか】</p> <p>◇殷と周はどのように黄河地域を支配したのか。</p> <p>◇諸子百家にはどのような思想が求められたのか。</p> <p>◇秦漢帝国はどのように中国を支配したか。</p>
	エ 時間軸からみる諸地域世界	<p>・各地域における古代帝国成立までの流れを把握させる。</p> <p>(歴史の前後関係・因果関係を把握する力)</p>	<p>【古代帝国はどのように成立したか】</p> <p>◇ローマ帝国とキリスト教はどのように関わったか。</p> <p>◇秦漢帝国と儒教はどのように関わったか。</p> <p>◇ペルシア帝国とゾロアスター教はどのように関わったか。</p>

大項目	中項目及び単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】 ◇単元内における問いの例
(3) 諸地域世界の交流と再編	ア イスラーム世界の形成と拡大 単元「ムスリムの時代」	・イスラームが宗教の枠にとどまらず、社会の仕組みを規定するものであったことに気付かせる。 (民族を超えて広がる宗教のつながりから歴史の地理的關係に気付く力)	【イスラーム教はなぜ短期間のうちに他民族に受け入れられたのか】 ◇イスラーム教の何が人々の心を捉えたのか。 ◇アッバース朝はなぜ広大な領域を支配できたのか。 ◇インドや東南アジア、アフリカの人々はなぜイスラームを受け入れたのか。 ◇トルコ・モンゴル人によってイスラーム社会はどのように変質したか。
	イ ヨーロッパ世界の形成と展開 単元「キリスト教の時代」	・キリスト教とヨーロッパ社会の結びつきについて考察させる。 (宗教と社会のつながりから歴史の空間的關係に気付く力)	【キリスト教はどのようにしてヨーロッパ世界を作り上げていったのか】 ◇なぜ教皇はカールに西ローマ帝国の帝冠を授けたのか。 ◇「カールの戴冠」は西ヨーロッパ世界に何をもたらしたのか。 ◇何が人々を十字軍に駆り立てたのか。 ◇十字軍によってヨーロッパはどのように変化したか。
	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 単元「モンゴルの時代」	・遊牧民族がユーラシア諸地域を結びつけたことを理解させる。 (民族や宗教を超えた世界のつながりから歴史の空間的關係・地理的關係に気付く力)	【なぜモンゴルはユーラシア大陸を支配できたのか】 ◇中華帝国と北方民族の關係はどのように変化したか。 ◇モンゴル人はユーラシア諸地域をどのように結び付けたか。 ◇モンゴル帝国は本当に分裂したのか。
	エ 空間軸からみる諸地域世界	・ユーラシア諸地域のつながりについて空間的關係を把握させる。 (歴史の空間的關係・地理的關係を把握する力)	【「ムスリム」であることはどのような利点をもたらしたのか】 ◇ムスリムネットワークはどのように成立したか。 ◇モンゴルネットワークはどのように成立したか。

大項目	中項目及び単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】 ◇単元内における問いの例
(4) 諸地域世界の結合と変容	ア アジア諸地域の繁栄と日本 単元「豊かなアジア」	・16～18世紀のアジア諸地域が世界で最も経済的に繁栄していた理由を考察させる。 (専制国家がもたらした繁栄を多角的に分析する力)	【この時期のアジアはどうして豊かだったのか】 ◇なぜ明清に銀が大量流入したのか。 ◇強い皇帝権力は明清に何をもたらしたのか。 ◇明清の朝貢貿易はどうして崩壊したのか。 ◇オスマン帝国の異教徒政策はどのような影響をもたらしたのか。
	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 単元「ヨーロッパ世界拡大の時代」	・アジア航路と大西洋航路が開かれたことでどのような変化が起きたかを考察させる。 (富を求めて動く人間の様子を多角的に分析する力)	【ヨーロッパ人をアジア・アメリカ大陸へと働き動かしたものは何か】 ◇アジアやアメリカ大陸の人びとはヨーロッパ人との接触で何を得たか。 ◇ヨーロッパ人はアジアやアメリカ大陸の人びとの接触で何を得たか。
	単元「主権国家体制の誕生」	・16～18世紀のヨーロッパで主権国家体制がどのように形成されたかを考察させる。 (「主権国家」とは何かを多面的・多角的に考察する力)	【各国はどのように「主権国家」へと成長していったのか】 ◇宗教改革は社会をどのように変えたか。 ◇三十年戦争はそれ以前の戦争とは何が違うか。 ◇イギリスで絶対王政はなぜ挫折したのか。 ◇フランスはなぜルイ14世を生み出したのか。
	ウ 産業社会と国民国家の形成 単元「近代の始まり」	・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命によるヨーロッパの近代化の過程を理解させる。 (「近代」とは何かを多面的・多角的に考察する力)	【環大西洋革命は欧米社会に何をもたらしたのか】 ◇工業化は人間の生活を豊かにしたのか。 ◇「アメリカ」が求めた自由とは何か。 ◇フランス革命はなぜ過激化したのか。 ◇ナポレオンがのこしたものは何か。 ◇ウィーン体制はなぜ崩壊したのか。 ◇プロイセンはなぜドイツ統一を目指したのか。
	エ 世界市場の形成と日本 単元「アジア諸国の動揺」	・ヨーロッパの進出に対するアジア諸地域の動きを政治面だけでなく、経済的側面から考察させる。 (市場化された世界の動きを多面的・多角的に考察する力)	【なぜアジアはヨーロッパの進出を許したのか】 ◇エジプトの独立はなぜ失敗したのか。 ◇イギリス統治がインドにもたらしたものは何か。 ◇19世紀の清朝の改革はなぜ挫折したのか。
	オ 資料からよみとく歴史の世界	・一体化していく諸地域世界の流れを多面的・多角的に考察させる。 (資料を多面的・多角的に考察する力)	【19世紀ヨーロッパによる近代化は何をもたらしたのか】 ◇誰が豊かさを享受したのか。 ◇誰が自由を享受したのか。

大項目	中項目及び単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】 ◇単元内における問いの例
(5) 地球世界の到来	ア 帝国主義と社会の変容 単元「植民地の時代」	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義政策と経済政策の関わりを考察させる。 ・植民地化によって、被支配地域にもたらされた変化を整理させる。 <p>(植民地が世界に残したものを見いだす力)</p>	<p>【植民地は世界に何をもたらしたのか】</p> <p>◇なぜ欧米諸国は植民地を欲したのか。</p> <p>◇アフリカや太平洋を分割した列強の思惑は何か。</p> <p>◇アジア諸地域の「民族」意識はどこからもたらされたものか。</p>
	イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 単元「20世紀の戦争」	<ul style="list-style-type: none"> ・国民という概念の広まりと世界規模の戦争の関連について気付かせる。 ・この時期に高まった民族意識が現代の民族・領土問題につながっていることを考察させる。 <p>(世界大戦が世界に残したものを見いだす力)</p>	<p>【20世紀において戦争はどのように変容したのか】</p> <p>◇第1次世界大戦はなぜ「世界大戦」と呼ばれるのか。</p> <p>◇第1次世界大戦後の国際協調は世界に何をもたらしたのか。</p> <p>◇第1次世界大戦後のアジアの民族運動はなぜ失敗したのか。</p> <p>◇なぜ第2次世界大戦は防げなかったのか。</p>
	ウ 米ソ冷戦と第三世界 単元「東西冷戦」	<ul style="list-style-type: none"> ・政治的対立の多くが経済的な利害関係によってもたらされていることを経済統計の資料などから考察させる。 <p>(冷戦が世界に残したものを見いだす力)</p>	<p>【冷戦とは何か】</p> <p>◇なぜ、「hot war」にならなかったのか。</p> <p>◇この時代に、アジア・アフリカは本当に「独立」できたのか。</p> <p>◇なぜ冷戦は崩壊へと向かっていったのか。</p>
	エ グローバル化した世界と日本 単元「ポスト冷戦」	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦後の世界が政治的に多極化する一方、経済的な結び付きが世界各地に拡大している様子を認識させる。 <p>(グローバル化する世界の諸課題に気付く力)</p>	<p>【冷戦終結後の世界はどのように変化したのか】</p> <p>◇冷戦終結後、「パクス・アメリカーナ」は実現したのか。</p> <p>◇なぜ、各地で民族対立が激化したのか。</p>
	オ 地球世界の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえながら今後のあるべき姿を考察させる。 <p>(地球世界の課題を自ら設定し探究する力)</p>	<p>【「持続可能な開発」を達成するために我々はどうすればよいだろうか】</p>

地理歴史科 単元デザイン

科目 世界史B

◆期待する生徒像	◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒 ◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒		
大項目	(2) 諸地域世界の形成		
単元名	ウ 東アジア・内陸アジア世界 単元「中華文明の成立」	ねらい	東アジア世界を形成した中華文明の特質を考察させる。
【単元を貫く問い】	【中華帝国は東アジア世界をどのように成立させたか】		
この単元で身に付けさせたい力等	思想と地域世界を関連付ける力		評価場面◎
第1次 殷周古代国家の興り ◇核となる問い ◇殷と周はどのように黄河地域を支配したのか。 授業における主な活動 〈使用教材〉 教科書・資料集・ワークシート 〈生徒の活動〉 ①殷と周の政治体制の違いについて、教科書や資料集の該当箇所をチェックする。 ②殷と周の政治体制を比較するワークシートを記入し、どちらの政治体制がよいか自分の考えをまとめる。 ③フィードバックシートを用いて他の生徒の考えを知り、考察を深める。	第2次 春秋戦国期における社会変動と新思想 ◇核となる問い ◇諸子百家にはどのような思想が求められたのか。 授業における主な活動 〈使用教材〉 教科書・資料集・ワークシート 〈生徒の活動〉 ①代表的な諸子百家の思想をワークシートにまとめる。 ◎②孔子・孟子・荀子・法家・道家・墨家の6グループに分かれ、それぞれが目指していた政治や国の形について話し合う。 ③話し合いの結果を発表する。	第3次 秦漢帝国による中国統一 ◇核となる問い ◇秦漢帝国はどのように中国を支配したか。 授業における主な活動 〈使用教材〉 教科書・資料集・ワークシート 〈生徒の活動〉 ①秦漢の諸政策をワークシートにまとめる。 ◎②秦が法家を採用した理由について自分の考えをまとめる。 ◎③漢代以降に儒学が重んじられるようになった理由について自分の考えをまとめる。 ④フィードバックシートを用いて他の生徒の考えを知り、考察を深める。	
評価観点	思考・判断・表現	評価方法	ワークシート 評価規準 諸子百家の思想や秦漢の統一政策が中華文明の形成に大きな役割を果たしたことを考察することができる。

地理歴史科 単元デザイン

科目 世界史B

◆期待する生徒像	◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒 ◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるのか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒		
大項目	(4) 諸地域世界の結合と変容		
単元名	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 「主権国家体制の誕生」	ねらい	16～18 世紀のヨーロッパで主権国家体制がどのように形成されたかを考察させる。
【単元を貫く問い】	【各国はどのように「主権国家」へと成長していったか】		
この単元で身に付けさせたい力等	「主権国家」とは何かを多面的・多角的に考察する力		評価場面◎
<p>第1次 ヨーロッパの普遍的権威の動揺 (◎)</p> <p>◇核となる問い ◇カール5世は何を目指したか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 I ヨーロッパ白地図, II ローマ帝国/フランク王国/カール5世時代の神聖ローマ帝国の最大領域地図, III 現代のヨーロッパ地図</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>① I に II を参考にローマ帝国/フランク王国 /カール5世時代の神聖ローマ帝国の最大領域地図を色分けして書き込む。</p> <p>② I と III を比較しながらローマ帝国/フランク王国/神聖ローマ帝国に現代のどのくらいの国が属しているかを調べ、それぞれの国家の共通点を発表する。</p> <p>③ EU加盟国を I に記入し、EUとかつての帝国を比較してその相違を発表する。</p>	<p>第2次 宗教改革の広がり</p> <p>◇核となる問い ◇宗教改革は社会をどのように変えたか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 木版画『ルターの首引き猫』</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>① 木版画的構図や描かれた人物について制作者がどのような意図を込めたかを考え、発表する。</p> <p>② 木版画を見た当時の人々がどのような印象を抱いたかを考え、発表する。</p> <p>③ 大量に印刷された木版画が広く一般民衆に宗教改革を浸透させたことに気付く。</p> <p>④ ルターの主張がヨーロッパの秩序の変更をもたらしたことに気付く。</p>	<p>第3次 最初のヨーロッパ大戦</p> <p>◇核となる問い ◇三十年戦争はそれ以前の戦争と何が違うか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 ウエストファリア条約の日本語訳文</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>① 資料集を用いてローマ帝国滅亡後から三十年戦争までのヨーロッパの戦争を調べ、その対戦の構図を確認する。</p> <p>② 資料集を用いて三十年戦争に加わった国々を参戦の理由とともに調べる。</p> <p>③ ウェストファリア条約の日本語訳文を参照し、三十年戦争が、ヨーロッパが初めて経験した「大戦」であったことに気付く。</p>	<p>第4次 絶対王政への道</p> <p>◇核となる問い ◇戦争は国家をどのように作りかえたか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 フランスの1599～1653年の年間支出の変動</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>① グラフを見て顕著な変化を指摘する。</p> <p>② 変化の起きた年代にフランスが三十年戦争に介入したことに気づく。</p> <p>③ 大規模な財政支出するためにどのような国家のあり方が必要なのかを考え発表する。</p> <p>④ 常備軍の維持費捻出のための徴税システムの必要性と王権の強化との関連を指摘し、戦争と主権国家(絶対王政)の因果関係に気づく。</p>
評価観点	関心・意欲・態度	評価方法	ワークシート
		評価規準	歴史地図の作成を通じて、現代と16世紀の共通点や相違点を指摘できる。

地理歴史科 単元デザイン

科目 世界史B

◆期待する生徒像	◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒 ◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるのか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒		
大項目	(4) 諸地域世界の結合と変容		
単元名	エ 世界市場の形成と日本 単元「アジア諸国の動揺」	ねらい	ヨーロッパの進出に対するアジア諸地域の動きを政治面だけでなく、経済的側面から理解させる。
【単元を貫く問い】	【なぜアジアはヨーロッパの進出を許したのか】		
この単元で身に付けさせたい力等	市場化された世界を多面的・多角的に考察する力		評価場面◎
<p>第1次 アラブ民族の目覚め</p> <p>◇核となる問い ◇エジプトの独立はなぜ達成されなかったのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 資料集、『スエズ運河条約 1888 年』 〈生徒の活動〉</p> <p>①エジプト＝トルコ戦争の結果、ムハンマド＝アリーの置かれた立場を確認する。 ②スエズ運河開削とその影響について考え発表する。 ③『スエズ運河条約 1888 年』を読みイギリスの帝国主義的なエジプト支配のあり方を読み取る。②19 世紀末～20 世紀初頭の列強各国の様子を概観し、国内における社会主義思想の浸透が国外の植民地獲得へと向かったことに気付く。</p>	<p>第2次 植民地統治下のインド社会 (◎)</p> <p>◇核となる問い ◇イギリス統治がインドにもたらしたものは何か。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 『19 世紀後半のインドの輸出入統計表』 〈生徒の活動〉</p> <p>①インドの鉄道建設の変化をとらえ、その要因について考え発表する。 ②インド財政のイギリスにおける借入れの変化を確認し、その要因について考え発表する。 ③①と②からイギリスのインド統治のあり方を考える。〈使用教材〉アフリカ・世界の白地図、色ペン</p>	<p>第3次 中国近代化の始動</p> <p>◇核となる問い ◇洋務運動はなぜ行き詰まったのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 『洋務運動年表』『日本変政考序文』 〈生徒の活動〉</p> <p>①『洋務運動年表』から運動の特徴を考え、発表する。 ②康有為の『日本変政考序文』から、彼の日本の明治維新観を読み取る。 ③変法運動に際して康有為が洋務運動をどのようにとらえていたかを考え、発表する。</p>	
評価観点	資料活用の技能	評価方法	ワークシート
		評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 資料から、宗主国と植民地との経済的関係を把握することができる。 複数の資料から植民地の置かれていた状況を推測することができる。

地理歴史科 単元デザイン

科目 世界史B

◆期待する生徒像	◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒 ◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるのか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒		
大項目	(4) 諸地域世界の結合と変容		
単元名	オ 資料からよみとく歴史の世界	ねらい	一体化していく諸地域世界の流れを資料の読み解きを通して多面的・多角的に考察させる。
【単元を貫く問い】	【19世紀ヨーロッパによる近代化は何をもたらしたのか】		
この単元で身に付けさせたい力等	一体化していく諸地域世界の流れを多面的・多角的に考察する力		評価場面◎
<p>第1次 産業革命のもたらしたもの</p> <p>◇核となる問い ◇誰が豊かさを享受したのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>※4人一組のグループをつくり話し合い発表する。</p> <p>①著者名・書名を伏せた資料を読み、著者が論じている時代と場所(国や地域)をその根拠となる箇所を探しながら考える。</p> <p>②著者が労働者の貧困の原因をどう捉えているかを考える。</p> <p>③著者が労働者の状態の改善のために何が必要であるかを考える。</p> <p>④指導者は著者名・書名を明らかにし、著者の主張がその後の世界にどのような影響を与えたのか、学習した知識をもとに考える。</p>	<p>第2次 イギリス人のアヘン戦争観</p> <p>◇核となる問い ◇誰が自由を享受したのか。(◎)</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 グラッドストーンの議会演説(1840/4/8)</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>※英和辞書のみ持ち込み可。4人一組のグループをつくり話し合い発表する。</p> <p>①「グラッドストーン」「イギリス」「アヘン」を空欄にした資料を読む。</p> <p>②演説が行われた場所を歴史的背景とともに考える。→指導者が正解を教える。</p> <p>③演説者が何を訴えたかったのかを考える。</p> <p>④演説者のプロフィールと、国家や経済活動の在り方、政治家としての在るべき姿についての彼の考えを考える。→指導者が正解を教える。</p> <p>⑤演説者の反対側の立場で演説者を論駁・説得する方法を考える。</p> <p>⑥当時のイギリス人が考える「自由」とはどのようなものだったかを考える。</p>		
評価観点	思考・判断・表現	評価方法	ワークシート 評価規準
資料を基に一体化していく諸地域世界の流れについて多面的・多角的に考察することができる。			

地理歴史科 単元デザイン

科目 世界史B

◆期待する生徒像		◆歴史学習のための技能を身に付け、世界史に関する知識・理解を基に、地球世界の課題を自ら設定し探究できる生徒 ◆「何が課題で、どのような解決方法が考えられるのか、まとめる、書く、話し合う、発表する」ことのできる生徒		
大項目		(5) 地球世界の到来		
単元名		ア 帝国主義と社会の変容	ねらい	帝国主義政策と経済政策の関わりを考察させ、植民地化によって、被支配地域にもたらされた変化を整理させる。
【単元を貫く問い】		【植民地は世界に何をもたらしたのか】		
この単元で身に付けさせたい力等		植民地が世界に残したものを見いだす力		評価場面◎
<p>第1次 19世紀末欧米諸国の社会矛盾</p> <p>◇核となる問い ◇帝国主義国家とはどのような国家なのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 列強の鉱工業生産量及び額の表</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>◎①列強の鉱工業生産額やアメリカへの移民数の変化をグラフで確認し、第2次産業革命からどのように帝国主義へ移行したか考察する。</p> <p>②19世紀末～20世紀初頭の列強各国の様子を概観し、国内における社会主義思想の浸透が国外の植民地獲得へと向かったことに気付く。</p>		<p>第2次 世界分割と列強対立</p> <p>◇核となる問い ◇なぜ欧米諸国は植民地を求めたのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 アフリカ・世界の白地図、色ペン</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>◎①資料集を見ながら列強ごとにどのような思惑を持って植民地を広げていったか、白地図に色を塗って考える。</p> <p>②外交関係の変化から、19世紀末における英仏の対立が20世紀に入ると英独の対立へと変化したことを気付く。</p>		<p>第3次 アジア諸地域の民族運動</p> <p>◇核となる問い ◇植民地化によってアジア・アフリカにもたらされたものは何か。</p> <p>授業における主な活動</p> <p>〈使用教材〉 中国分割と義和団事件の風刺画</p> <p>〈生徒の活動〉</p> <p>①列強による中国分割の動きが中国の人々の民族意識を高め、それが後の中国の歴史にどのような影響を及ぼしたか、考える。</p> <p>②現代のインドや東南アジアの民族意識が植民地宗主国に対抗する中で形成されていったことを理解する。</p>
評価観点	資料活用の技能	評価方法	ワークシート	評価規準 資料の読み解きを通して帝国主義と呼ばれた列強各国の動きとその目的について考察することができる。